

ここが問題！リニア新幹線

第101号 2023年2月18日

発行

リニア新幹線を考える

東京・神奈川連絡会

ストップ・リニア！訴訟結審。

判決は7月18日に

原告2人と弁護団6人が

最終弁論で工事認可取消
の判決を求める



司法記者クラブで会見（2月3日）

東京・神奈川連絡会の 天野共同代表が意見陳述

ストップ・リニア！訴訟第二六回口頭弁論が二月三日午後二時から東京地裁で開かれ、最終弁論として原告二人（天野捷一、森伸一氏）、原告代理人六人（関島保雄、和泉貴士、半田虎生、山下潤、岡本浩明、樽井直樹の各弁護士）が意見陳述を行いました。

天野氏は「リニア事業の実現を認めた国交大臣の決定から間もなく一二年を迎えるが、事業に対する不信の念はますます強まっている。各地で事故が続発し、工事の決定的な遅れも目立っている。それは杜撰な環境影響調査の結果であり、将来国民の負担になる建設費の追加も予想される。国民もリニアの実現を望んでいない」と訴え、市原義孝裁判長にリニア工事認可取消しの判決を求めました。

原告で静岡県島田市の森伸一さんは、水返せ運動など、大井川の減水に対する県民の激しい活動を紹介し、「リニア工事による毎秒二トンの減水は大きい」として工事中止を求め、裁判長に工事認可取消しの判決を訴えました。

工事認可取消判決求め裁判所宛の要請はがきに協力をお願いします

リニア訴訟原告団は、判決日の七月一八日以前に、裁判官に対し二〇一四年十月の国交大臣によるリニア工事实施計画の認可を取り消しの判決を出すよう要請するはがき活動を行うことを決めました。事務局で官製はがきを用意します。皆さんのご協力をお願いします。官製はがきは訴訟事務局が用意します。

リニア工事認可取り消しの判決を！

私たち「ストップ・リニア！訴訟」の原告七八一人

は、各人がそれぞれの思いでこの訴訟の原告になりました。原告を支えるサポーターの数も増えていきます。私たちに「南アルプスにトンネルを掘ってほしくない」、「輸送の安全性が確認されない鉄道はダメ！」、「生活が不条理に脅かされたり財産権を侵害されるのはイヤだ！」という思いが国民に広がっています。リニア新幹線事業の受け止め方は様々ですが、原告には「リニアを通してはならない」という思いだけは共通です。私たちはこれまで二五回の口頭弁論でその思いを訴えてきました。昨年九月には市原裁判長をはじめ裁判官にはリニア山梨実験線沿線に赴いていただき地下水の枯渇や騒音・振動・日照被害の実態を聴取されました。一方、裁判の中で国とJR東海はまともな反論も、リニア工事に関する具体的な情報も示していません。私たちは裁判官に、工事实施計画の認可取消しの判決を出されるよう強くお願いします。

JR東海リニア工事事務所

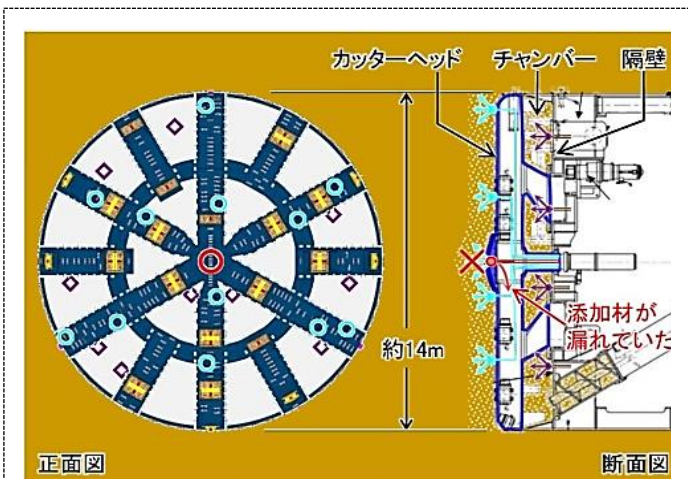
「調査掘進は3月中に始めたい」

東京・神奈川連絡会の天野、山本（太）、矢沢の3共同代表は二月一三日、一二月のリニア工事関連の質問書に対するJR東海側の回答を神奈川東工事事務所川崎分室で聞きまし
た。JR東海は一月一七日から二九日にかけて市内四か所で五回の調査掘進説明会を行いました。この説明会でJR東海は梶ヶ谷非常口から犬蔵方向に二五〇メートル、等々力方向に三五〇メートル、また東百合ヶ丘非常口から片平非常口方向に一五〇メートルの調査掘進を行うことを明らかにしました。

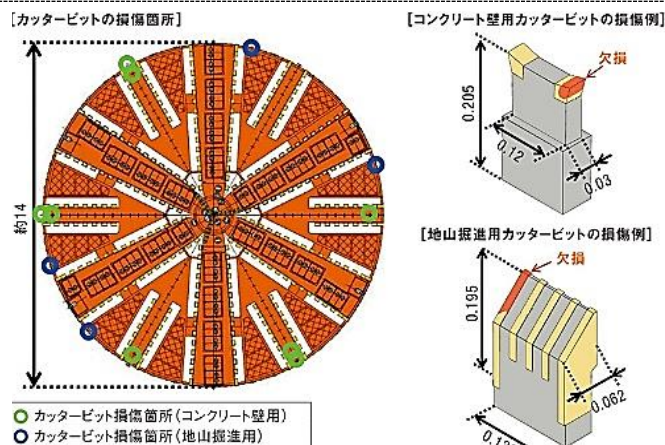
調査掘進の開始についてJR東海は二月一三日の回答で、梶ヶ谷→犬蔵方向と東百合ヶ丘からの調査掘進は三月中に開始し、梶ヶ谷→等々力方向を含め、八月ごろを目途に終わりたいとの意向をしました。

北工区の調査掘進は未だ停止中

昨年二月以降ストップしている北品川非常口からの調査掘進はシールドマシン内部からの添加剤注入口の洗浄を行っているが、前方に大深度地下に達する穴をつなげて注入口に付着した土を除去する方法については専門家と協議中と聞いていると答え、北品川の調査掘進は未だ停止していることを認めました。



北品川調査掘進の停止～2021年10月から調査掘進を開始、目標の300mの予定が50m掘ったところで停止。上図のシールドマシン中央の添加剤注入口に土が付着し、昨年初めに掘進中止。注入口を増やしたり、洗浄装置取付を予定。



愛知県春日井市の坂下西非常口からの調査掘進開始。わずか40センチ掘ったところで切羽のカッタービットが破損、掘削停止。カッタービットの取替作業を行っている。大深度地下掘削の技術、地層の詳細な知見が不足している結果ではないか。

梶ヶ谷のシールドマシンは地中空間開発東百合ヶ丘はJIMテクノロジー製

二月一三日の回答で、川崎での調査掘進に使用するシールドマシンの製造元について、JR東海は、「梶ヶ谷非常口からの掘削にあたるシールドマシンは地中空間開発製、東百合ヶ丘で使用するのはJIMテクノロジー製である」と答えました。なお、北品川の調査掘進に使用したのはJIMテクノロジー製です。事前の地質調査については「既存資料と自社のボーリング調査で十分やっている」と答えました。

JR東海は、「梶ヶ谷から犬蔵方向への調査掘進はJR貨物ターミナル敷地内であり民有地には至らない。東百合ヶ丘からの調査掘進も同様である。梶ヶ谷→等々力への調査掘進はこの掘削の後に行う」との方針を示しました。また「川崎市内の事前の家屋調査は三千戸で、このうち九百戸に調査協力を依頼し現在七割から調査に応じる回答を得ている」との回答。

調査掘進の開始についてその時期を市民や報道機関に伝えるのかの質問には、「シールドマシンの発進式も行わないので事前告知は行わない」と答え、不誠実な対応でした。

東京・神奈川連絡会は、地質調査の追加と住民・市民の理解を得られていない調査掘進の取り止めを求めました。

川崎市内リニア調査掘進説明会（宮前・中原・高津・麻生）～1月17～29日 トンネル工事を急ぐJR東海に住民から「安全なのか」の疑問の声



中原説明会（1月19日）中原市民館

JR東海は川崎市内のリニア新幹線の梶ヶ谷、東百合ヶ丘非常口から大深度トンネルの調査掘進を行うとして、一月十七日～二十九日まで宮前、中原、高津、麻生区内四か所で五回にわたって説明会を開きました。参加者は宮前の百名を最高に五〇～七〇名と少なかったが、これは町内会ルートに頼って説明会の告知をしているJR東海の消極的な姿勢が参加者の減少につながる形で影響しています。

東京・神奈川連絡会は説明会前にリニア大深度工事の危険性を明らかにする小パンフレットを参加者に配布しました。

中原説明会のJR東海の説明

【梶ヶ谷工区の説明内容】

「第一首都圏トンネルは四つの工区に分けて行う。梶ヶ谷工区は非常口から二基のシールドマシンにより掘削を行う。一号機は西側から犬蔵非常口を通じて東百合ヶ丘非常口まで掘削、二号機は東側から始め等々力非常口まで掘削する。一号機は組立終了、二号機は組立中である。一号機は保守用車両基地へのトンネルも掘削する。梶ヶ谷工区では地下四〇～八〇メートルの固く締まった地盤を掘っていく。すでに立坑の建設、シールド機の組み立て等を行ってきた。梶ヶ谷非常口は平成三年十月に完成し、資材搬入口（立坑）は令和三年二月に完成している。梶ヶ谷ではシールドトンネルの掘進準備が行われており、準備が出来次第シールド掘進を始める。犬蔵非常口、等々力非常口は立坑躯体を建設中であり、東百合ヶ丘非常口は令和三年八月に完成した」。

【トンネル工事での安全・安心の取組み】

「東京外環道では地表面の陥没事故の原因として、特殊地盤における施工に課題があった。中央新幹線ルートには特殊な地盤はないと考えている。当社が施工管理を強化するポイントとは以下の四つである。」

① 追加ボーリングで採取した土砂を用いて

適合性を確認し、添加剤の種類や量を慎重に選定する。

② 掘進中はチャンバー内の泥土圧を、大断面による上部と下部の圧力の差や勾配にも着目し、適正管理することを徹底する。

③ 新たに泥土を採取する土砂サンプリング装置を搭載し、掘進中に泥土の性状の確認を行う。

④ 掘削土の取り込み過剰の兆候をいち早く把握するために設計上の掘削土量と実績との差を管理する基準値を厳しく設定する。

説明に参加者の疑問や不安の声 相次ぐ

今回の各区での調査掘進説明会では、東京北工区や春日井・坂下西工区での調査掘進の停止についても初めに説明せず、梶ヶ谷、東百合ヶ丘での調査掘進を急ぐJR東海に対し参加者から強い抗議と疑問の声が出されました。一年以上も調査掘進が止まっている原因には重大な事態が起きているのではないかといい声です。外環道の地盤陥没、調査掘進の長期停止を受け止めれば、調査掘進の先に控える住宅地での大深度トンネルの掘進はムリではないかと住民たちが考えているのです。工事を急げば事故がまた起きるのでは。



東百合ヶ丘非常口で伊藤清美氏の説明を聞くツアー参加者 2/14

リニア工事・大規模開発現場を視察 川崎市中部8か所を、20人が見る

二月一四日、まちづくり・環境運動川崎市民連絡会の呼びかけで、環境・街壊し現場をバスで視察するツアーが行われました。東京・神奈川連絡会からは、天野、山本(太) 共同代表と伊藤清美さんが参加し、今回のバスツアー参加者は二〇人に上りました。

この日は午前九時に南武線武蔵小杉駅に集合し、始めに小杉・丸子まちづくりの会の入交さんの案内で、日本医大武蔵小杉病院跡地の超高層マンション(高さ一八〇m、五〇階、一五〇〇戸)の建設現場を視察しました。広大な敷地はブルドーザーが走り、膨大な掘削土砂が積み上がっていました。周辺には騒音や粉じんなどの影響が出ています。武蔵小杉駅周辺には高さ一五〇～二〇〇mの超高層マンションが建設されています。市が容積率を二〇〇%から六〇〇%に引き上げ、高層建物十三体の林立状態を生んだものです。



小杉日医大病院跡地工事



登戸土地区画整理事業

この後、一行は中原区西加瀬の巨大物流倉庫建設予定地に向かいました。ここは三菱ふそう倉庫の跡地で広さは一〇ヘクタール。大型七六〇台を含む毎日一三〇〇台の車両が一年中毎日出入りする日本最大級の物流倉庫の

建設が予定されています。大気質の悪化、道路渋滞、振動、騒音、交通事故が心配であり、周辺住民が「巨大倉庫はいらない」という反対の声を上げています。

続いて、バスはリニア等々力非常口、梶ヶ谷非常口、鷺沼駅前再開発現場、リニア犬蔵非常口、東百合ヶ丘非常口を回りました。

鷺沼駅前の再開発は東急不動産が中心の事業で、住民生活を見捨てるこの計画についての市民意見には一万七千八百二十九通、環境影響評価について二千六百通の意見書が提出されています。武蔵小杉駅周辺の再開発や等々力再整備事業と同様に、市がデベロッパーに積極的に協力し環境保全や住民生活をないがしろにしています。

バスツアーは長沢浄水場で市上下水道局よりの緊急給水装置の説明を聞き、生田浄水場の再整備の模様を視察、最後に登戸土地区画整理事業のうち高さ百四十六メートルのマンションが建設される登戸駅前を回りました。

ここが問題！リニア新幹線 NO.101号

発行 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一(中原・高津) 0900・3910・8173

山本太三雄(宮前) 0900・8775・1879

矢沢美也(麻生・多摩) 0900・6108・6568